

新慶院

編集・発行
若松高校新聞部
北九州市若松区上原町15-13
TEL (093) 751-1911
印刷所
仙秀文社印刷(883)1234

卒業生へ贈る言葉

卒業生の皆さんへ

校長 繁田治男



卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。皆さんは、昭和六十一年四月七日、校門の桜並木の花吹雪を受けて、新慶院の学び舎に集いました。以来、三年間、勉学やスポーツに励み、ここにめでたく卒業を迎えることができました。皆さんの成長の歩みは、そのまますべて、若松高校の発展の歴史の一ページを築いてきました。本校の七十年記念の式典に参列した皆さんは、若松の再生を心に誓い、着々と実践してきています。サッカ一部門の九州大会での活躍では、選手として参加した者、又はその応援で全校的な活気をよみがえらしてくれました。体育祭では、手づくりで山車をつくり、青春を燃やせ、宿泊研修、修学旅行で集団生活のあり方を学び、師弟関係を密なものに高めました。学校生活も充実したものであり、若松高校の存在を改めて地域に認識させ、その信頼を回復させる礎を築いてくれました。その具体的な表われが、本年度、諸君が希望

見事な華を

教頭 西川和彦



卒業の日を迎えた皆さん、その努力に対し、心から拍手を送り、お祝い申し上げます。

高校の課程を修了したということは、一応、人生の基礎固めが出来たといえます。と同時に、それぞれの個性に合わせた進路に向かって、真の勉強がスタートすることでもあります。過ぎ去った学校生活を振り返り、これからの行くべき道に対して、思いを新たにする大切な時です。

社会活動の中で着実に育っていき、このような「与える心」をもつて、行動できることは、充実した社会生活を営む上で極めて重要なことであり、諸君のよう若い時代に培って欲しいものです。

時代は昭和から平成元年に変わり、昭和は、激動の時代であるといわれていますが、諸君の育った時代は恵まれた豊かな時代であり、情報化、技術化、国際化が更に高度に発展することは明白です。エネルギー問題、食糧問題、高学社会化の問題、産業、経済の構造的問題等、直接的、間接的に受け止めていかなくてはなりません。

諸君は、こうした変動に、対応できる健康な心身を鍛え、強い忍耐力を育て、自立して欲しいと思います。自立した社会人として充実した生活を営むうえで極めて重要な「充実感」や「存在感」を味わうことのできる人生を歩んで欲しいと思います。

人が自分の生活や生き方ができるのは、自分が何か目標を設定して目的をもち、その実現に向けて邁進し、苦勞して困難を乗り越え、苦勞して物事を成し遂げていって下さい。そこに自分が存在している意義や価値が見出せる筈です。社会生活を営むということに必ずそこに他者との関係が存在しています。他者に、自分の位置がどうあるのか、どうありたいか、自分存在する価値を判断しているといえます。集団の中にあつて、自分がその集団に属しているという帰属意識が大切です。

いろいろ人生が、出会いが皆さんを待っています。いずれも予測出来ないし、それ故に期待も大きいし、恐れや、不安も多いと思います。人生では出会いを大切にしたいものです。真の出会いのために、常に誠実をこらし、他人への敬意をもち、自分に向ける心構えがなければなりません。今までは勉強に追われて、余裕もなかったと思いますが、静かに思索にふけり、自己を見つめ、人を見ること、世界観を養い、すぐれた出会いをたしかめてください。

私たちが進む道に何があたるかを知り得なくても、歩み続けなければならぬのが人生です。少しづつ、少くとも自分がどっちへ向かって進んでいるかを知ることが大切です。だが、その歩いて行く向きを定めることも、また極めてむづかしいことではありません。「自分ほどだましやさいものはない。自分ほどいいわけのきく相手はいない。自分ほど甘やかすのに都合のいい人間はいない」自分をきびしく鍛えるのも自分なことです。

自己の限界に挑戦して、訓練に耐え、自己の壁を乗り越えたと、すばらしい自己を見出すことが出来るでしょう。その新しい自己を見出したときの喜びこそ、人生の喜びであり、それが自信となり、より良い自己実現へ挑戦する勇気をもたらすものだと思います。

今、苦しみ、悩んでいることも、自分が成長するための一つの訓練なのだと思います。むづかしい、感謝の気持ちがわいてくるもの。健康に十分注意して、自分の選んだ道を窮め、見事に進んで下さい。人生の真理を華を咲かせてください。

三年生の皆さん、御卒業おめでとうございます。二月から先輩方が学校に登校しなくなり、今とて何かが物足りなく感じているかもしれません。先輩方がつくった良い伝統をひきつぎ、若松を良い学校にしてほしいと思います。正直言って先輩方がいなくなると、生徒会では活動目標

「はなむけ」

一組 神田 勝聖



二組 山吹 二大



三組 堀切千穂実



四組 小山 信一



五組 本田 孝二



六組 永吉喜一郎



七組 野口 敦弘



八組 前田 薫



九組 松尾 健治



十組 日高 寛明



卒業おめでとう。今こそ君たちの人生の中で最も大切なときです。限りなき可能性を秘めた君たちの今後の活躍に大いに期待します。

先輩、頑張っつて!

生徒会長 松本 比佐志

おめでとう。二月から先輩方が学校に登校しなくなり、今とて何かが物足りなく感じているかもしれません。先輩方がつくった良い伝統をひきつぎ、若松を良い学校にしてほしいと思います。正直言って先輩方がいなくなると、生徒会では活動目標

慶院言

●千年の波うちよせる 雲纏の響 灘一重厚雄健、しかも思想性豊かな、実にすばらしい歌い出しである。●作詞者火野葦平氏は、残念ながら本高の出身ではない。だがここには、若松に生まれ育つて、若松の歴史を知り、若松の自然を愛する作者の思いが、凝縮された表現となって吐露されている。●千載百年の昔、遣隋使小野妹子は多くの隋船を従えてこの海を渡って行ったであろう。新羅遠征を企てて一敗地に塗れた中大兄皇子も、無数の兵船を引き連れてこの海をめぐり、博多は那の大津へと陣を進めたに違いない。●千古の歴史を秘めて、波は今日もうち寄せる。そして、雲はるか彼方に広がる中国大陸の道、欧州諸国一無限の想いは溢れて尽きること知らない。●さて、今日からは卒業式。式が終われば、君たちは通いなれた校舎を去り、着なれた制服に別れを告げる。その瞬間、君たちを結びつけていた一つの絆が音もなく切れて行く。●縁あって本校に入学して三年、君たちは同じ校舎で学び、同じ校章を身につけることで、級友同士の友情を育み、先輩・後輩の連帯を確かめ合ってきた。●では、一たび学舎を去り、制服を脱ぎ捨ててしまった君たちを一つに結びつけるものはないか。思い出す時とともに薄れ、級友の面影さえないでなくなっていく中で、いつまでも君たちの心と心を結ぶもの、それは校歌ではないか。●今日は卒業式。列席の諸君、交わりぬ友情と連帯を誓って、声高らかに校歌を歌おう。

スキー教室を終えて

二学年学年主任 芝 正

平成元年二月十三日より十七日迄のスキー教室を、長野県北志賀スキー場にて行いました。皆早くより準備をし、スキー教室を楽しみにしていた様です。十三日、朝早く家を出、駅に着くと、大勢の見馴れた顔があり嬉しそうにはしゃいでいます。今日が楽しみで眠れなかったのか、皆目がはれていました。小倉より決められた通りの手順で、皆早く乗車し、まずは一安心をしました。名古屋駅近くになるとゴミ袋を持ち車内をまわる美化委員達が、手際よく車内清掃を始めました。全て予定通りです。JR中央本線に乗り込み出発途中「寝覚の床」を眼下に見ながら北上して行きま



すが、美しい景色よりも友達との会話に夢中になり、車内放送も耳に入りません。夕刻長野に着くと早速バスに乗り込み、細い山道を登ります。遠くの山にゲレンデが見え、色とりどりのウェアに身を包んだ、スキーヤー達の華麗な姿を想像したのか、「出来るのかな」と皆心配顔のようです。ホテルに着くと、すぐに温かい鍋物の夕食です。予定通りとは言いながら、部屋にみこんでいた様です。十三日、朝早く家を出、駅に着くと、大勢の見馴れた顔があり嬉しそうにはしゃいでいます。今日が楽しみで眠れなかったのか、皆目がはれていました。小倉より決められた通りの手順で、皆早く乗車し、まずは一安心をしました。名古屋駅近くになるとゴミ袋を持ち車内をまわる美化委員達が、手際よく車内清掃を始めました。全て予定通りです。JR中央本線に乗り込み出発途中「寝覚の床」を眼下に見ながら北上して行きま

スキー教室の思い出

黒木 久保田 親子 勲

2月13日月曜日7時30分に小倉駅で最初の点呼をした。すると女の子一人が、波帯に巻き込まれた上、黒崎駅からJRに乗ったのだ。JRも事故で不通になった。新幹線に間に合わないと思っていると10分前に真っ青な顔をして走ってきたHさん。

そんなこともありはららら、どきどき、修学旅行が幕開けした。9時間もの間、新幹線・急行列車に揺られましたが、Sesamesは一番危険な年だけあって元気がいいノ雷をも解かずような熱気をむんむんさせ21時にホテルに到着した。14日は朝からいい天気で開校式後一斉にスキー教室が始まった。ほとんどの人が初めてのスキーでうまく滑れなかったがインストラクターの指導のおかげでなんとか滑れるようになった。16日もなるてる全体的に班が上の方まで行って滑れるようになった。せっかく滑れるようになったのにもう閉校式。まだまだ滑りたかった。その夜、修学旅行最大の見物の松明滑走も雨の

1学年学年主任 大貝 一俊

寒ばい

若松高校の寒稽古は、平成元年一月一日(水)から四日(土)まで実施された。その内容は、男子が武道と持久走、女子は持久走であった。本校で寒稽古が行われるようになったのは、七年度、また学校行事になって二年目を迎えた。その目的としては、「一年の最も寒い時期に、しかも早朝に行う寒稽古に関係職員、生徒が全員参加して取組み、師弟のふれあいを図り、厳しい集団訓練を通して、生徒に忍耐力・持久力・協調心などを培い、心身の鍛錬に努めるとともに円滑な学業生活に資する」とある。今年も暖冬で暖かさに慣れていたせいから、少し冷えていた。

通して学んでくれた事とあります。目的である「規律ある生活を通して、状況に応じた行動を敏速に行う習慣を身につける」、「雄大な自然にふれ感性を磨き、且つ先生と生徒相互の理解友情を深める」ということは達成出来たと思います。これは、先生方を始め、インストラクター、旅行に関係して下さいました方々の助けがあったからこそ出来た事を忘れなさい。

突撃レポート

Vol. 6

今回体育部からは明るく楽しいバレー部女子を、文部からはオシャレな写真部を紹介しします。

バレー部

●まずメンバーの紹介をお願いします。
8番 松浦薫(アタック) アタックNo.1の薫
2番 松田亜希子(アタック) 足の速さは日本一。
3番 伊藤薫(アタック) ストレートアタックが得意。
4番 小柳淳子。かえって来たまぼろしの淳子。
5番 大庭邦子(アタック) チームの歩くスピード。
6番 本庄百合子(レシーバー) サブレシーブが得意。
7番 中島美佳(レシーバー) ちょこまかして早口。
9番 清水多美子(セッター) A.B型のみちちゃん。サーブの要です。
青柳亜紀(ネージャー) なくてはならない存在です。

●練習内容は？
それはひみつです！
●バレー部の中ではやっつけ事なごありますか？
苦しくなったり時、みんなが「ぐっつき」って言って元気づけ合ってます。「ぐっつき」はバレー部員の合言葉なんです。
●部員数は？
一応25人です。%は幽霊部員です。
●活動内容は？
写真を撮ったり、フィルムを現像して写真をやっています。
●先生に一言。
春も近づき、いよいよ三年生のみなさんにも卒業の



新人類に期待

教務主任 倉田 賢次

若い世代の人を新人類と呼ぶのはいつ頃からであったろうか。そして若者の中に、大人から見た時理解に苦しむ行動や発想を持ち、考え方が自己中心的で、社会性に欠ける者を新人類と指す人もいる。しかし、昭和三十年代から、経済の高成長期に入り、止まる所を知らぬ物質文明の発展で、日常生活や道徳・価値観が多様化している今日、若い世代を「今」といって、若い者は「と」といって、新人類と呼び批判する事は必ずしも正しい見方とは言えないのではないかと。かつては子供だけの時期の仕事が忙しいですか？
文化祭や体育祭・卒業式などのときだけです。
●どんな時写真部に入っていますか？
私達の代になって早や一年が過ぎようとしています。もったいなくもろくろくたに「新人類」と部員一同は臨んできました。失敗や反省も回を重ねる毎に少なくなってきたように思われます。これから自分達の満足ゆく仕事をしたいと思っています。

編集後記

私達の代になって早や一年が過ぎようとしています。もったいなくもろくろくたに「新人類」と部員一同は臨んできました。失敗や反省も回を重ねる毎に少なくなってきたように思われます。これから自分達の満足ゆく仕事をしたいと思っています。

●顧問の先生に一言！
神田先生おかげさまで、私達の写真部が、たまには私たちの練習姿を見に来て下さい。
●全員の皆さんにバレー部からアピイルする事はありますか？
りません。
●写真部から、全校の皆さんにアピイル。
只今一年生部員募集中。カメラを持ってなくても。今なら現像から撮影テクニックまでやさしくコーチ。さあ、今日から君も名カメラマンだ！
●先生に一言。
もっと写真部の面倒をみて下さい。